



近年の労働災害の傾向と特徴を説明する松野泰彦地方産業安全専門官 = サンレイウ岐阜（岐阜市藪田東）

工事安全推進協議会総会で労災事故防止を呼び掛ける！

国土交通省木曽川上流河川事務所工事安全推進協議会は12月4日（木）、平成26年度の総会を岐阜市のサンレイウ岐阜で開いた。同事務所のおおさわ けんじ所長を会長、工事請負業者らを会員とする協議会で、総会には約150人が出席した。

冒頭挨拶に立った大澤会長は「10月以降、河川工事が進められている。これまで当事務所管内においては重大事故が発生せず、順調に工事が進んでいるのは皆さんのおかげ。労災は一瞬の気の緩みで起こる。これから、年末・年始にかけて、さらに工事が本格化するが、今一度、気を引き締め、安全管理の徹底をお願いしたい」と述べた。



最初に、厚生労働省岐阜労働局のまつの やすひこ・地方産業安全専門官が、「建設業における労働災害防止対策」と題して講演。松野さんは「ここ近年、全国において建設業の労働災害が大幅に増加している」と現状を説明し、「労働災害の防止対策として、4S活動（整理・整頓・清掃・清潔）や危険予知活動（KY活動）、指差呼称（指差確認）の徹底が重要。会社経営のトップ自らが事業責任者としての自覚と、自主的な安全衛生活動を発展的に活性化させてほしい」などと訴えた。

次いで、国土交通省中部地方整備局建設産業課の赤井淳調査指導係長が、「建設業法に基づく適正な施工の確保に向けて」と題して講演し、建設業法令の遵守等の必要性について説いた。

最後に、現在進められている各河川工事現場における工事事務事故防止対策に向けた取り組み事例が、工事を請け負う現場責任者などから報告され、参加した会員らは自らの工事現場を思い浮かべながら、熱心に聞き入っていた。



■労働災害防止へ向け対策確認！ 各支部から活動報告

■「一人現地KY」活動

- ・ ヒューマンエラー防止のため、自らが集中し、安全意識を高めるための一人KY活動



＜効果：不安全行動の防止に効果有り＞

■隣接する4工事の連携活動

- ・ 工事用車両の出入口や工事用道路の使用において、隣接する工事間で共有ルールを定めた活動



＜効果：不安全行動の防止に効果有り＞



木曽川維持工事
現場代理人 加藤建設（株）森腰拓未さん



長良川穂積地区 低水護岸4工事
主任監督員 長良川第二出張所 川地幸弘さん

■総会に参加して



労働災害防止対策の講演では、建設業における労働災害件数が前年度に比べ大幅に増加しているという結果に、やはり公共工事が増えたことにより災害件数も増えているのが現状なことに残念に思いました。また、適正な施工の確保ということで、建設業における人材不足を改善すべく職場環境を良くするための取組が行われている事を知り勉強になりました。各支部の発表では、実際の工事現場で行っている安全の取り組みを見させていただき大変参考になり、幾つかは自分の現場でも取り入れたいと思いました。

日頃から、安全第一を掲げ工事を行っていますが、労働災害は、「うっかり」、「勘違い」などのヒューマンエラーによる労働災害が多いことから、作業員一人一人の安全に対する意思向上をすることが労働災害を無くす第一歩と考え、工事の完成まで無事故、無災害を目標に進めて行きたいと思います。

揖斐川津村低水護岸工事
現場代理人
高田建設（株） やまかわ たけし
山川剛史